

肺腺癌手術検体を用いた血管浸潤の臨床病理学的意義に関する検討

1. 研究の対象

2007年1月1日～2015年12月31日までに国立がん研究センター東病院で外科手術を受け、肺腺癌 Stage I と診断された成人の方

2. 研究目的・方法

(1) 目的

肺がんには腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌、大細胞神経内分泌癌など多くの組織型があります。肺がんの病理診断では組織型の判定に加え、腫瘍細胞の性質や大きさについても評価を行います。血管浸潤は病理標本にあらわれる所見のひとつで、その存在は予後に関係することが知られていますが、その形や大きさといった性質がどのように予後に影響するのかの評価は定まっていません。

血管浸潤の質的な評価を行い他の病理所見や臨床所見との関連を明らかにすることで、新たな治療の開発につながる知見が得られる可能性があると考え本研究を計画しました。

(2) 方法

原発性肺がんと診断され手術を受けられた方の診療録を用いて、臨床的特徴に関する必要な情報等を調査します。また、切除された病変の組織を用いて免疫染色と呼ばれる腫瘍の特徴を評価する検査を行い、結果を検討します。情報収集の作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

(3) 研究実施期間

研究許可日から 2025年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：手術で摘出した組織

情報：年齢、性別、PS、喫煙歴、血液検査所見、画像所見、EGFR等の遺伝子異常の有無および遺伝子異常の詳細、病期、術前治療内容、病理所見（組織型、腫瘍径、脈管浸潤の有無、免疫染色所見など）、手術所見、術後治療内容等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申下下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお、この研究が適切に行われているかどうかを確認するために、

第三者の立場の者が研究対象者の方のカルテやその他の診療記録、研究データなどを拝見することがあります。

このような場合でも、これらの関係者には守秘義務があり、個人情報を守られます。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立がん研究センター東病院 病理・臨床検査科

〒277-8577 柏市柏の葉 6-5-1

TEL：04-7133-1111

メールアドレス：gishii●east.ncc.go.jp（●を@に置き換える）

担当者：石井 源一郎

研究責任者：国立がん研究センター東病院 病理・臨床検査科 石井 源一郎